

(平成21~25年度)

久留米高度先端医療開発クラスター



久留米地域

がんペプチドワクチンを核とする世界の高度先端医療開発拠点の形成を目指して

クラスター構想

当地域の取り組みである「福岡バイオバレープロジェクト」をグローバルな拠点へ育成するための中核事業と位置づけ、これまでの研究開発の最大成果であるがんペプチドワクチン開発をはじめとして、バイオ人材の育成、海外先進クラスター等との交流・連携を三大戦略として、我が国の死亡最大原因で国家的緊急課題となっているがんを中心とした高度医療分野の取り組みを行い、「久留米高度先端医療開発クラスター」を目指す。

事業概要

〈三大戦略〉

○がんを中心とした世界最先端の研究開発の促進

これまでの最大の成果である久留米大学「がんペプチドワクチン」開発の技術を核に、治療(創薬)分野、診断(チップ、ツール、試薬)分野を重点分野とし、がんの中でも最も死亡者数の多い肺がん等を対象とした「革新的医療に貢献できる新製品」の研究開発を行う。

○世界をリードする技術力をもったバイオ研究人材及び治験人材の育成

バイオ基礎技術及び生物統計解析等の習得によるバイオ分野の研究者・技術者の育成及び臨床試験(治験)に関わる専門人材の養成を行うため、久留米大学、九州大学等の大学及び製薬企業等の研究者・技術者を講師としたインターユニバーシティ・インターインダストリー人材育成体制久留米バイオカレッジを構築する。

○世界レベルの国際競争力の強化

世界の高度先端医療開発拠点を実現するため国内及び、海外駐在の国際展開・ビジネス支援コーディネータを配置し、世界最先端の高度医療機関・都市である米国テキサス州のMDアンダーソンがんセンター、米国ハーバード大学ボストンがんワクチンセンターなどと密接な交流連携や国際共同研究を実施し、高度医療都市の形成を進めることで、世界的な国際競争力を強化する。

〈産学官連携体制〉

知的クラスター戦略本部を中核機関内に設置し、事業方針の審議、決定を行うとともに、進捗報告会、知財戦略部会、技術移転・実用化推進部会、国際化部会、人材育成部会の5部会から成る事業推進委員会及び外部評価委員会を活用し、産学官の関係機関と綿密に連携し、本事業の推進を強力に図る。

企業・研究者・患者、そして地域住民に魅力的な地域づくり

研究機関が集積する久留米地域を中心として、産学官連携を基本とした福岡バイオバレープロジェクト、又6年間の都市エリア産学官連携事業の実施によりバイオ関連企業の集積等の多くの成果をあげてきました。

これらを基盤として知的クラスター創成事業(グローバル拠点育成型)「久留米高度先端医療クラスター」は革新的がん医療及び関連するバイオ技術を開発するものです。

久留米大学には世界をリードしてきたがんペプチドワクチンがあり、これを柱として、がん医療開発に必要な「研究開発」、「人材育成」、「国際展開」の3大戦略の下に研究開発課題としての、「がん治療」、「がん診断」、「がん研究ツール」の研究を推進していきます。その推進体制は久留米リサーチ・パークが科学技術・企業誘致・人材育成・知財等の人材を強化して大学等の研究を強力にサポートします。総合的な取り組みを実施することにより、関連企業・人材の集積を促進するとともに高度医療都市の整備をし、世界のがん研究・医療拠点化が将来の目標です。

事業総括 具嶋 弘



山之内製薬(株)理事、(独)医療基盤研究所監事を経て現職。福岡バイオバレープロジェクトバイオ産業振興プロデューサーを兼任

クラスター本部体制

- 本部長……………麻生 渡
 - 副本部長……………江藤 守國
 - 事業総括……………具嶋 弘
 - 研究統括……………伊東 恭悟
 - 副事業総括……………大内田 昭信(兼 科学技術コーディネータ(医薬品安全性))
 - 副研究統括……………池田 敬史(兼 科学技術コーディネータ(医薬品・薬理))
 - 知的財産コーディネータ…瀧口 昭彦
 - 人材育成コーディネータ…加藤 祐子
- (国際展開コーディネータ、臨床開発科学技術コーディネータ補佐等3名)

中核機関名

(株)久留米リサーチ・パーク

参加研究機関(太字は核となる研究機関)

- 産…(株)グリーンペプチド、(株)セルイノベーター、(株)アイエスティー、(株)アステック、ニプロ(株)、(株)同仁化学研究所、ILS(株)
- 学…久留米大学、九州大学、九州産業大学、京都大学、熊本大学、北里大学、近畿大学、北海道大学、弘前大学、帝京大学、東京慈恵会医科大学、東北大学
- 官…福岡県工業技術センター生物食品研究所、福岡県工業技術センター化学繊維研究所、(独)産業技術総合研究所、仙台厚生病院

〈研究開発テーマ〉

がん治療、がん診断、がん研究ツールの分野をがんの克服に必要な三要素と位置づけ、これまでの都市エリア産学官連携促進事業等で構築したプラットフォームを活用して、次の共同研究開発を実施する。

- 研究テーマ1: 肺がん、肝臓がん及び膀胱がん症例に対するテーラーメイドがんペプチドワクチン療法の実用化研究
- 研究テーマ2: がんワクチンゲノミクスに基づくがんワクチン適格性予測診断キット及びがんワクチン副作用診断キットの研究開発
- 研究テーマ3: がん研究・診断用新規バイオツールの開発

